

空間の自由 美術鑑賞のススメ



東京都現代美術館 ワークショップ2024 | 記録冊子

つくろう

MOT図解を



今回のワークショップでは、アイソメトリックと呼ばれる建築図法を用いて、建物内部の図解を描いている塩谷歩波さんを講師にお迎えし、実施しました。会場となる東京都現代美術館は、ユニークな建築空間によってパブリックスペースも充実しています。そうした場所を巡りながら、自らの様々な感覚を研ぎ澄まして建築空間を味わいました。ワークショップをとおし、参加者の皆さんは美術館に潜む「自分にとっての魅力」を見つけられたのではないのでしょうか。本冊子では、そうした当日の様子的一端をお届けします。



ポツポツ

Aチーム	Bチーム
日時 2024年9月28日(土) 13:30~16:30 対象 中学生以上 参加者 9名	日時 2024年9月29日(日) 13:30~16:30 対象 小学生とその保護者のペア 参加者 6組(12名)
場所 東京都現代美術館 地下2階 講堂 ほか 参加費 3,000円(Aチームは1名あたり、Bチームは1組あたりの金額)	
材料・道具	
<ul style="list-style-type: none"> 白地図(平面図) 立面図(MOT図解) 色鉛筆 クーピー 水性カラーペン 	<ul style="list-style-type: none"> テクスチャーの異なる素材 ハサミ のり テープ数種 クリップボード
<ul style="list-style-type: none"> ゴミ袋 模造紙 鉛筆 消しゴム 	

当日の流れ

5分 あいさつ

25分 建築空間を考える(講師の自己紹介)

講師である塩谷さんから、ご自身の制作にまつわるお話や、建築図面を描くための描画技法についてお話がありました。参加者も身近な建物やその内部を思い浮かべながら、改めて建築が生み出す空間へ意識を向けていきます。

20分 建築空間を味わう(鑑賞①)

塩谷さんとともに美術館の敷地内を巡り、空間に潜む光や音、温度、建材の質感などを、様々な感覚を用いながら味わいました。

活動場所：公園口広場(屋外)

50分 建築空間を記録する(鑑賞②)

塩谷さんが用意した平面図に、参加者が発見したことを各自で書き入れます。参加者の中に眠る感覚を各方面にひらいていく時間です。

活動場所：水と石のプロムナード(地下1階)、エントランスホール(1階)

50分 「MOT図解」をつくる(制作)

エントランスホールの平面図に書き留めたことを、図解(立面図)へ落とし込んでいきます。言葉や絵を描き込んだり、テクスチャーに特徴のある素材を貼り付けることで、触覚による気付きも表現しました。

20分 「MOT図解」を味わう(制作物の発表、参加者同士の表現を鑑賞)

参加者一人ひとりが、様々な感覚をひらき捉えた発見を、多様な方法で表現した「MOT図解」。お互いの気付きや表現の工夫を見比べながら鑑賞しました。

10分 まとめ

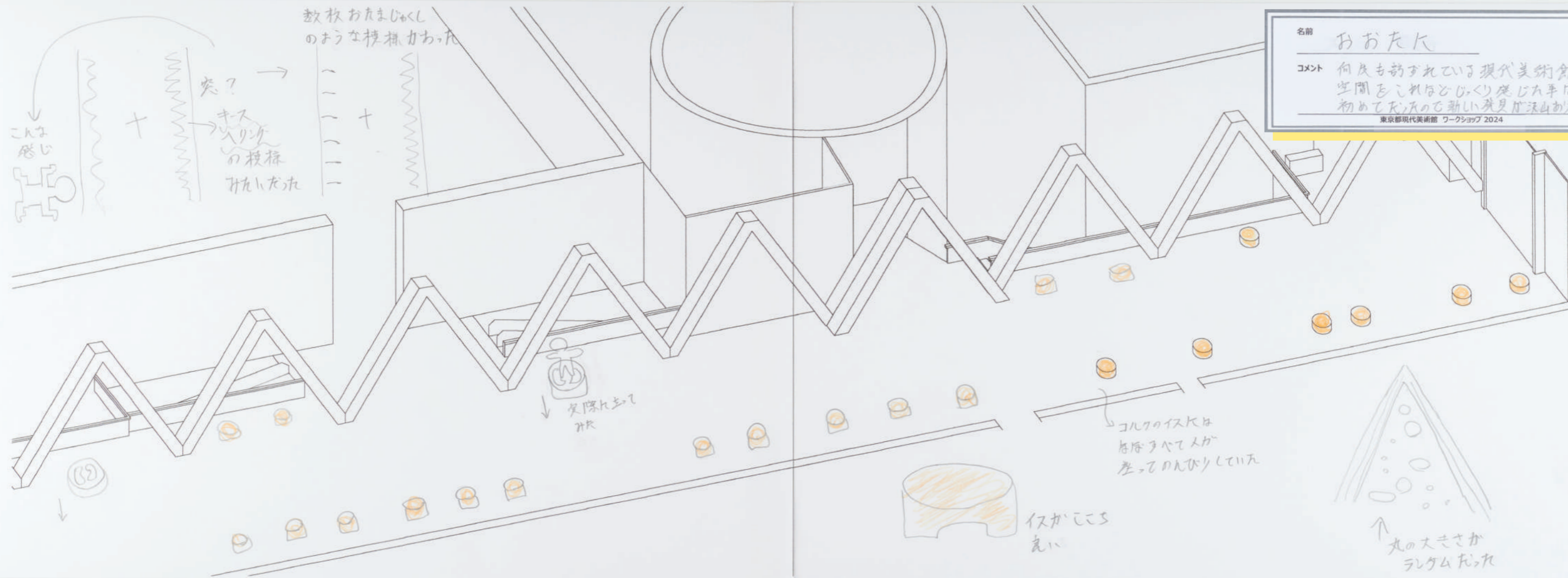
塩谷さんから、一連の活動に対してのコメントを受けてワークショップ終了です。



ポツポツ



ポツポツ





名前 のぐち

コメント ふたは 取り外しできるような小窓状に
下へあり 壁のたて

東京都現代美術館 ワークショップ 2024



名前 アカリ

コメント
椅子の使いかたと光量が気に入りました。

東京都現代美術館 ワークショップ 2024

たのしい MOT 図解

名前 ウタコ

コメント 他の方から見た新しい発見！
そして、やはりMOTの建物いいねー好き！

東京都現代美術館 ワークショップ 2024



ミュージアムショップ
はいいね
いいね...
アムボ天国
見つけよう!

ここから
アムボ天国
が見える
ここから見た
水の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

日本現代
美術館
ここから見た
アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

ここから見た木
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

ここから見た
アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

看板たち

アムボ
天国
行き

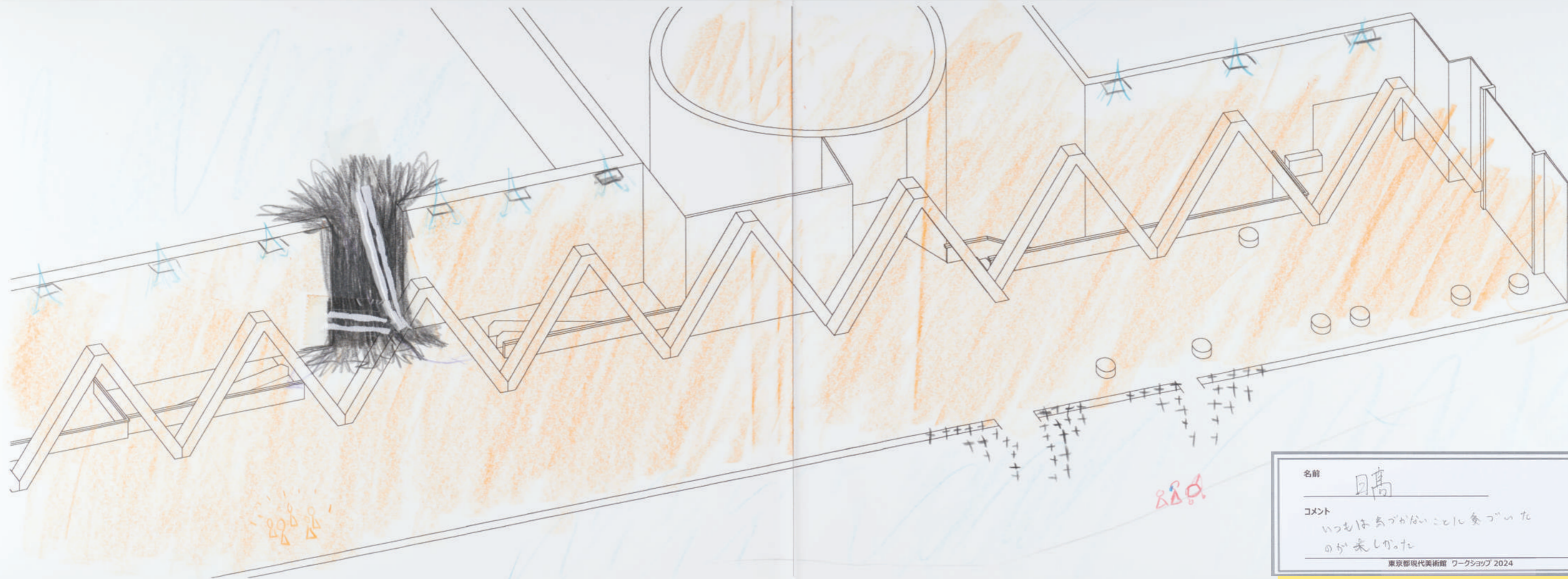
アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

アムボ天国
の景色は
とてきれいな
雨の日もまた
よし。

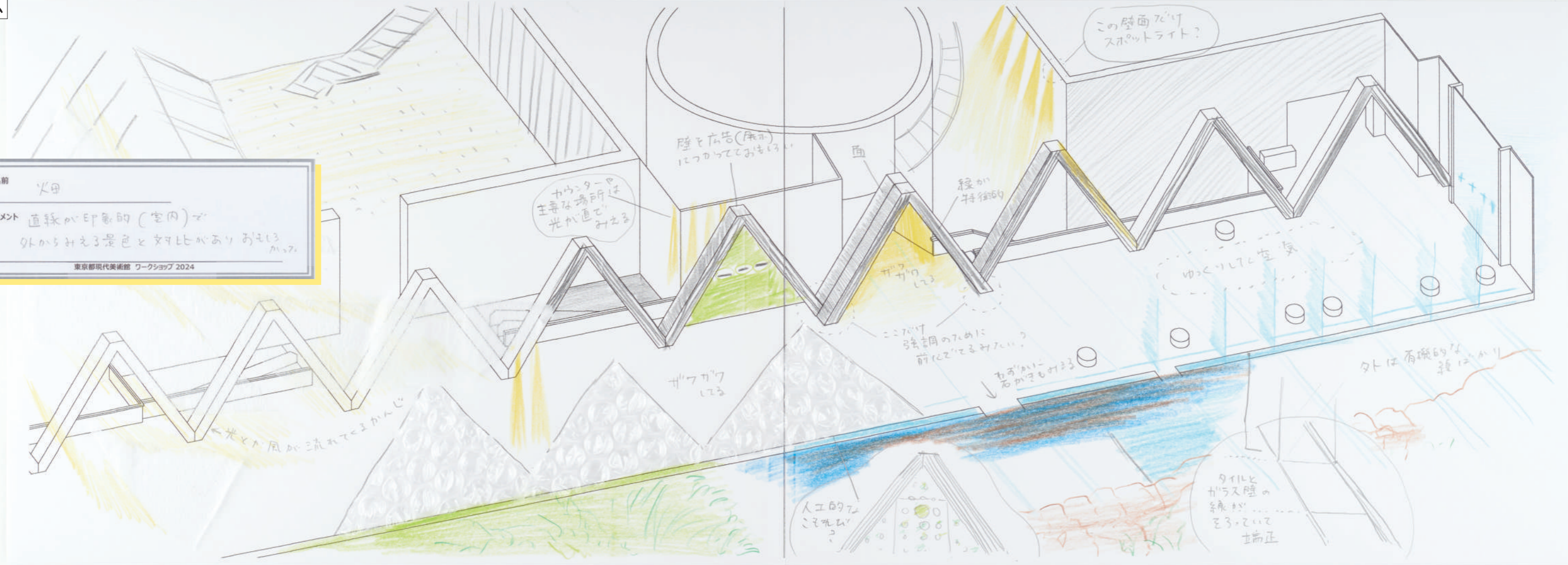


名前	目高
コメント	いつもあづかひのこに会つたのが楽しかった
東京都現代美術館 ワークショップ 2024	

名前 火田

コメント 直線が印象的(室内)で
外から見える景色と文法比がありあはし
か、

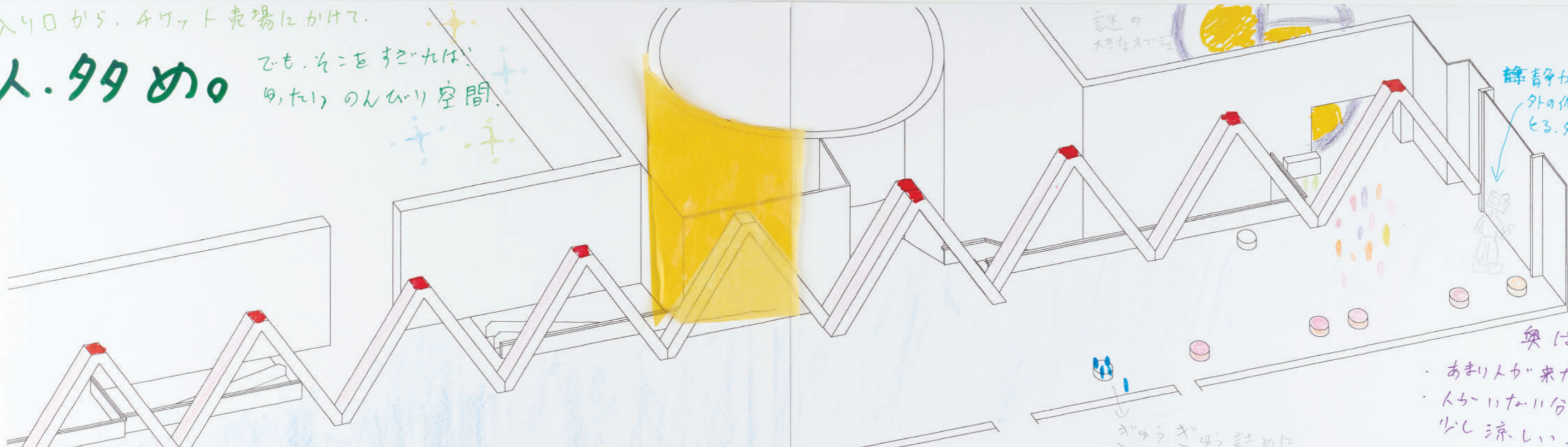
東京都現代美術館 ワークショップ 2024



入り口から、4つアト売場にかけて。

人.99め。

でも、ここをすたはけ！
ゆたかのんびり空間。



謎の
大きなアト

静寂中に
外の作品を
とる。外国の

奥は、

- ・ おお！人が来ない
- ・ 人がいらない分、少し涼しい。

「キョウキ」の4つ詰めに
座っている男の子4人も、1人立っている子。

名前 塩島 克枝

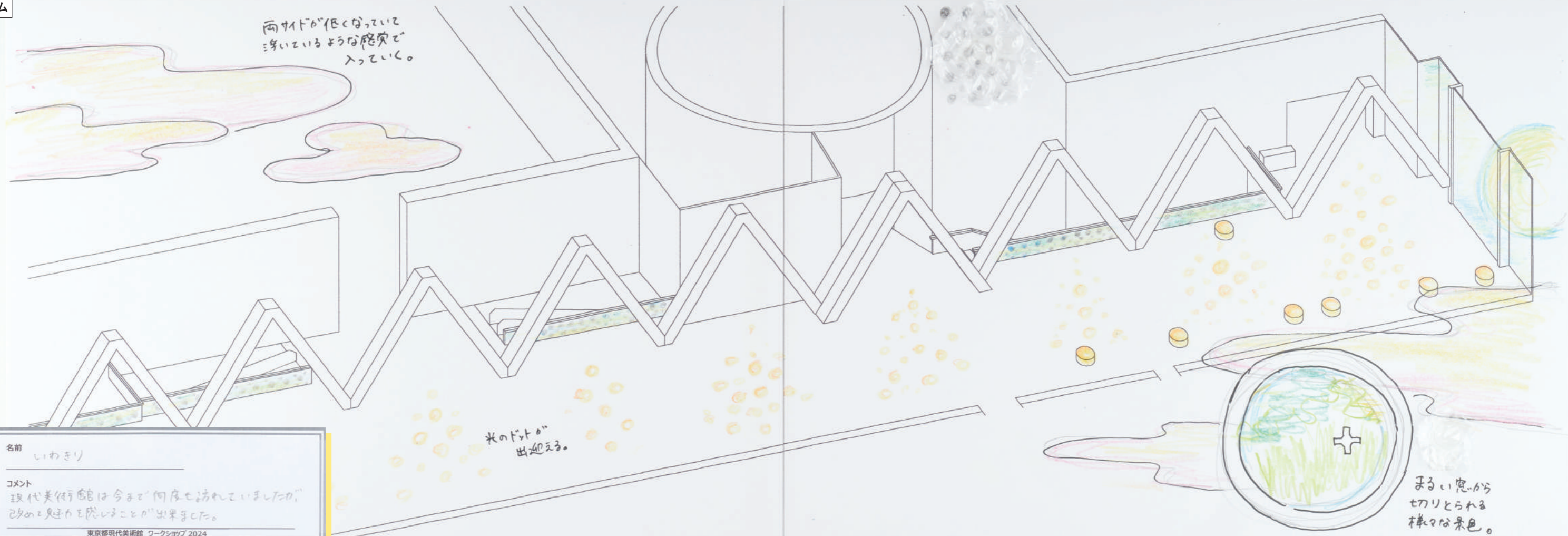
コメント

思ったよりにはできなかったけれど楽しかった

両サイドが低くなっていて
浮いているような感覚で
入っていく。

米のドットが
出始める。

まるで窓から
切りとられる
様々な景色。



名前
いわきり

コメント
現代美術館は今まで何度も訪れていましたが、
改めて見ると全然違う感じがしました。

名前

ツバキ 大己

コメント

所開外全築足石のたてやす 有建築の都市工学にて、いかに材料
いし厚材管の利便の語をたてやす 110の管は、いかに面白いたてやす!

東京都現代美術館 ワークショップ 2024

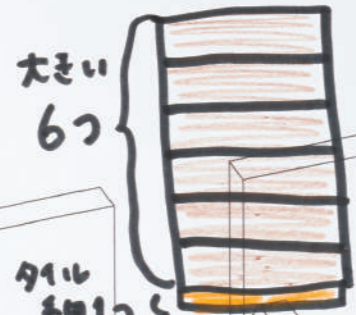
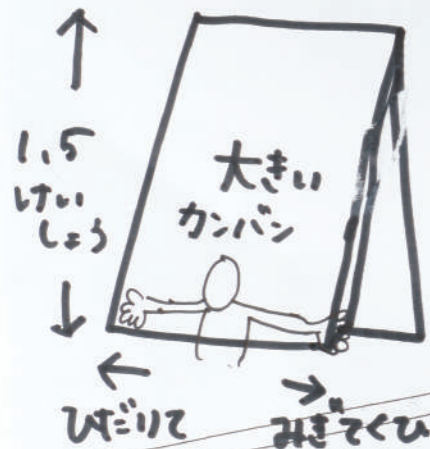




人がすくなくよ
しがかなゾーン

人がすくなくよ
サワサワゾーン
(サワサワゾーン)

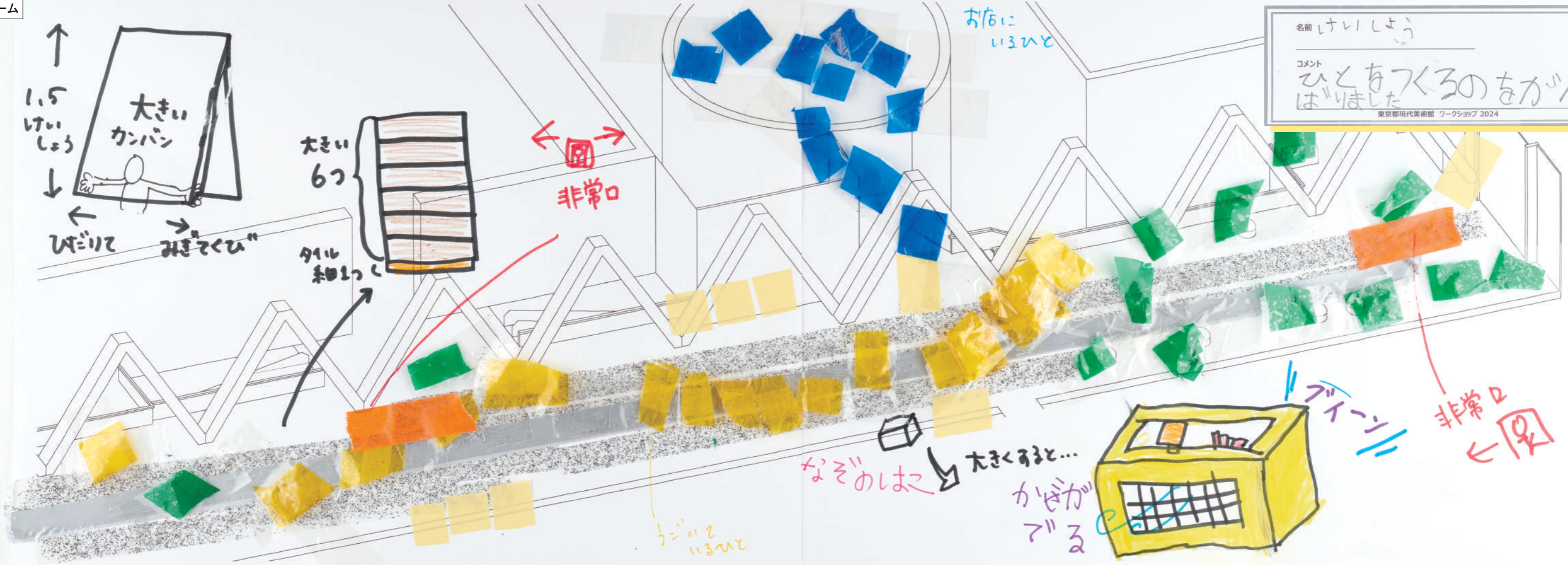
名前	がき
コメント	床と天井とカラフルな人 を表現した。



← 非常口 →

お店に
いります

名前 けいしょう
コメント
ひとをつくるのをかん
はりました
東京都現代美術館 ワークショップ 2024



なぞのしほ
大きくなると...
かざが
アール



← 非常口 →

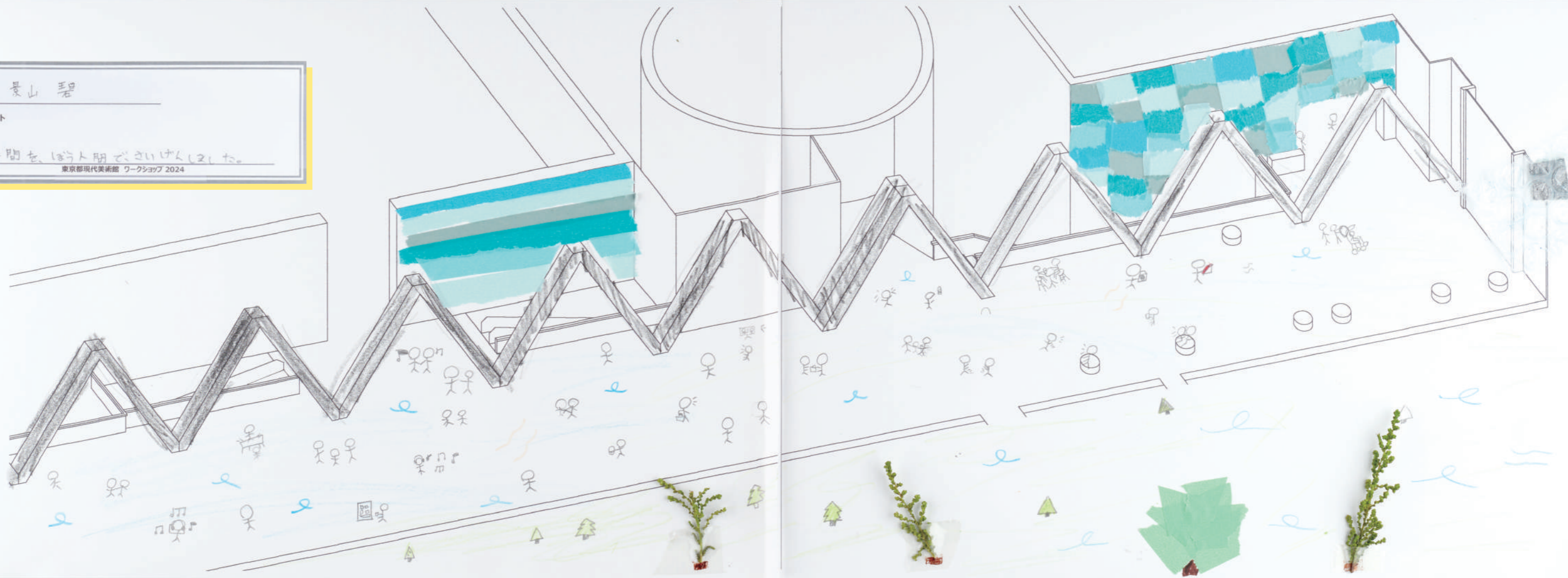
おに
いります

名前 長山 碧

コメント

人間を、ほっと朋でさいげくほした。

東京都現代美術館 ワークショップ 2024



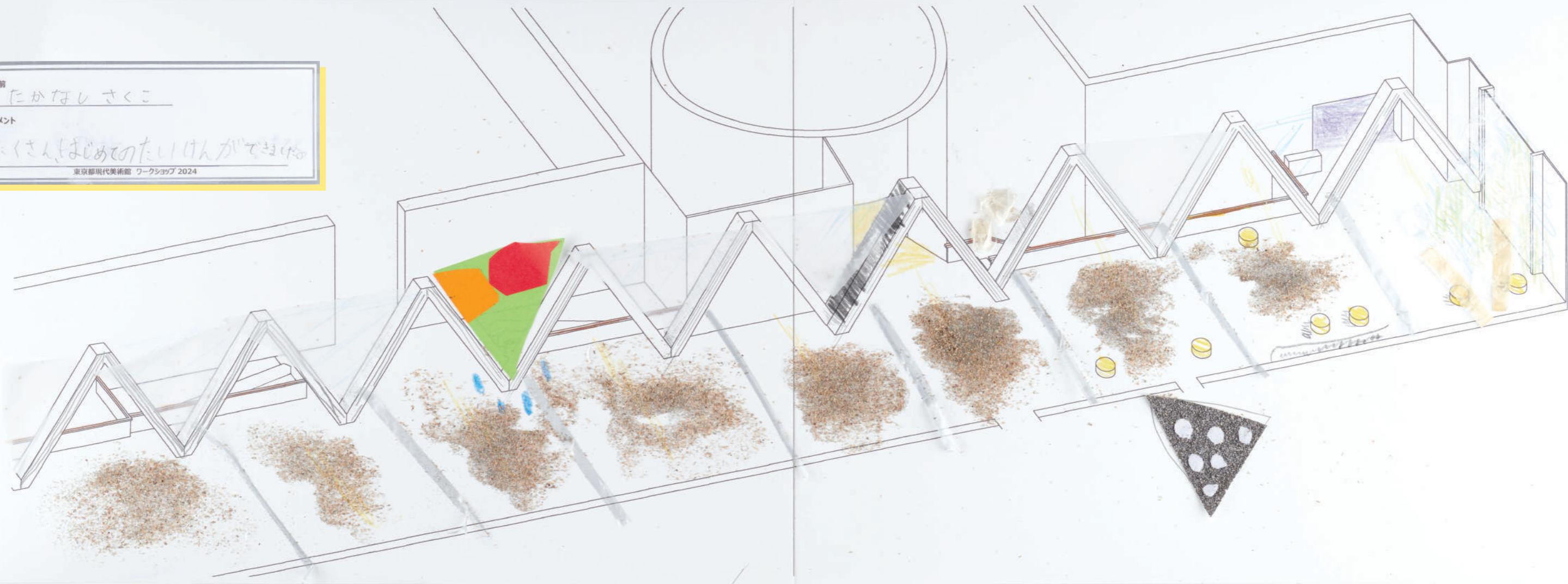
名前

たかなし さくこ

コメント

たくさんはじめてのたいけんがてきめい

東京都現代美術館 ワークショップ 2024

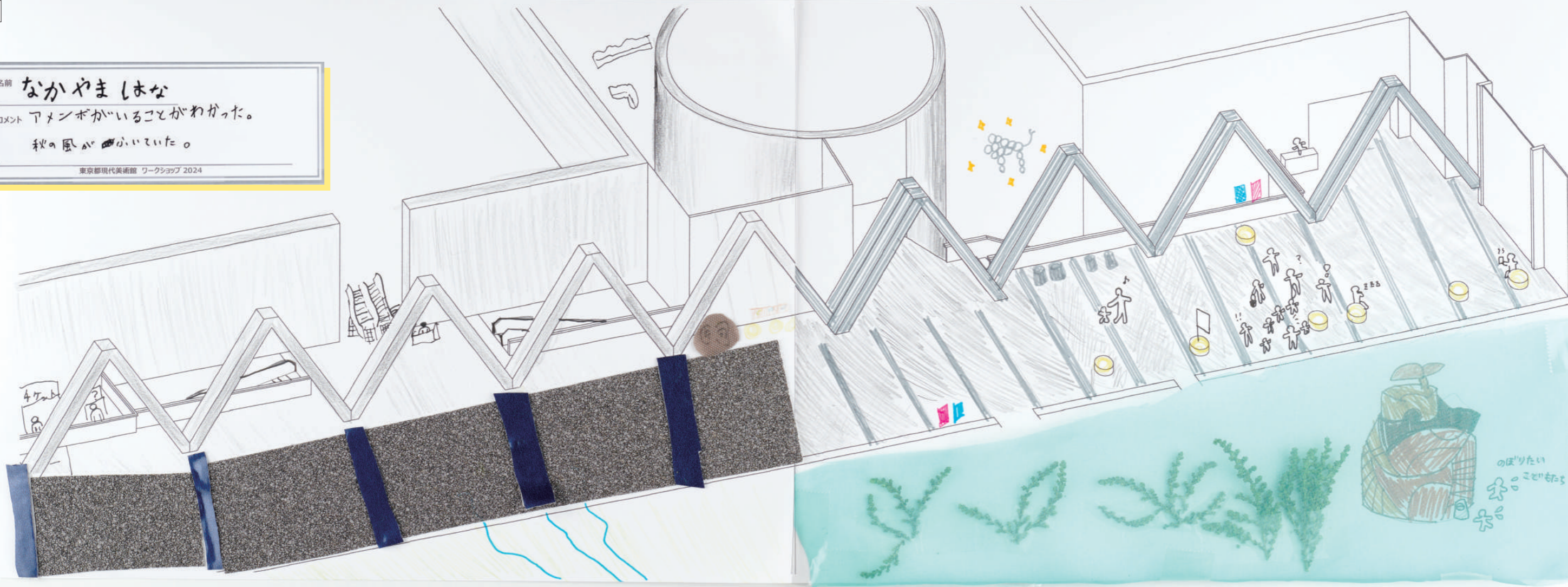


名前 なかやま しほな

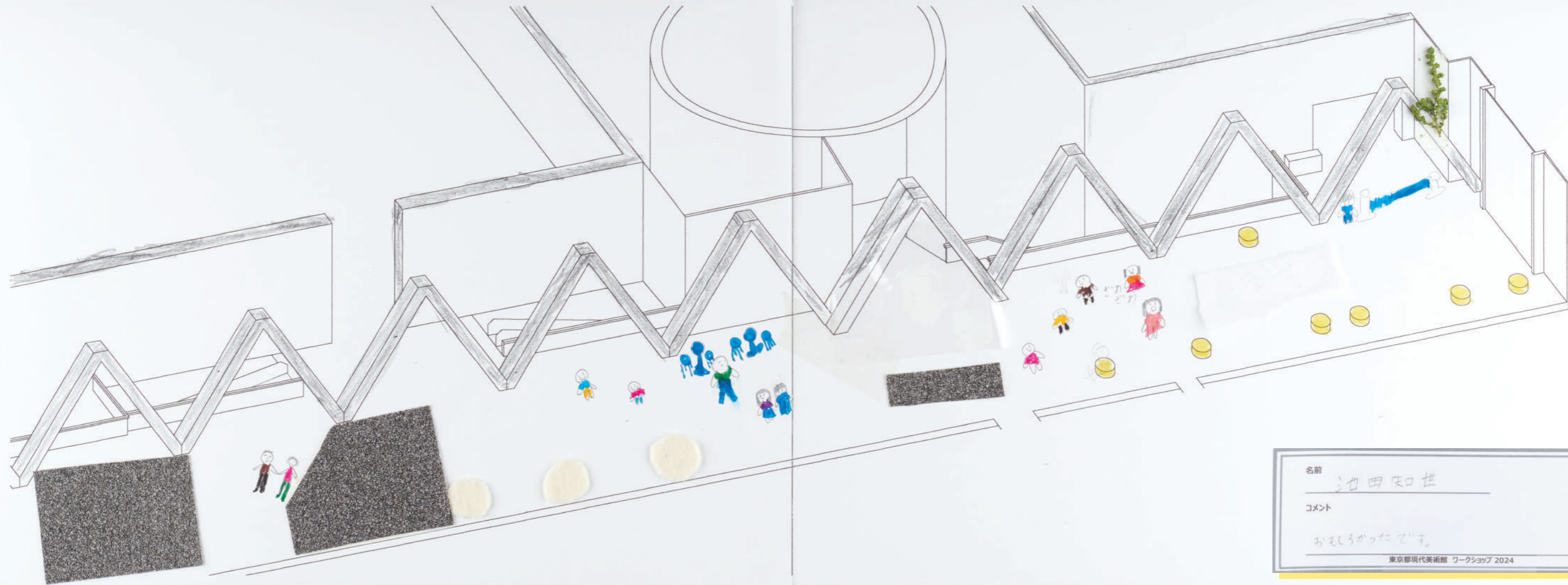
コメント アメンボがいることがわかった。

秋の風が吹いていた。

東京都現代美術館 ワークショップ 2024



のぼりたい
こどもたち



名前	池田 咲世
コメント	おもしろかったです。
東京都現代美術館 ワークショップ 2024	







空間の記憶を、記録したあとに

「美術館へ行こう」という時、その目的の多くは展覧会を訪れることや、作品を鑑賞することであるように思います。もちろん、その目的はもっともなのですが「作品と出会う」以外にも美術館での過ごし方もあるものです。当館でいえば、図書室、ミュージアムショップ、レストラン、カフェ&ラウンジといった、展示室以外の場所を活用される方もいるでしょう。また、建築そのものが生み出す様々な空間に、ただ佇むことが好きな方もいるでしょう。そうした様々な「空間」は利用者の皆さんにとってどのようなものとなり得ているのだろうか。その「空間」の中に潜む魅力があるとすればどのようなものなのだろうか、との考えから、塩谷歩波さんを招いたワークショップを企画しました。

塩谷さんの作品といえば、建築空間を俯瞰して立体的に描くアイソメトリックという図法を用いた「図解」シリーズが代表的です。銭湯から始まった図解も、今では純喫茶、レストラン、ギャラリー、茶室など、幅広い建物内部を描くに至っています。塩谷さんが描く図解において目を惹かれる点の一つに、建築空間の中に細やかに描き込まれた人物の存在があります。描かれた人物たちが生き生きと過ごしている姿は大変印象的です。そうした表現を可能とするには、実際にその場所へ訪れ、いくらか時間を過ごしながら、その空間で過ごしている人々の様子や気配を観察することは欠かせません。そのうえで、その場所ならではの人の振る舞いや姿を描いていくのですが、時に「その場所が将来的にこんな場所になったら良いな」という作家自身の希望を込めることもあるそうです。リアルな描写に留まらず、作家の眼差しを通した景色として描く創作行為は、場所や人の記憶を丁寧に拾い上げて記録していく、ということでもあるように思います。

今回のワークショップでは、美術館のパブリックスペースを巡り、様々な感覚を澄ましながら空間を鑑賞する機会となりました。「鑑賞」という形で改めて意識的に過ごしたことで、視覚的な発見はもちろん「見えないけれど、そこに確かにあるもの」の数々に気付くこともできたのではないのでしょうか。例えば、音、光、風、温度、触感、匂い、居心地…。日頃から何となく感じ取ってはいるものの、見過ごしたり、取りこぼしているものも多くあったはず。刻一刻と変化する、その瞬間にしか出会えない／感じ取ることができないものの中には、皆さんの心をそっと揺さぶるものもあったかもしれません。「美術作品」ではなくても、私たちの感覚が触発されるものは身の回りにあふれています。今回の経験が、日々の景色にも潜む彩りに気付くためのきっかけとなれば嬉しいです。また、美術館もそうした彩りある場所の一つとして、皆さんにとって親しみある場所になればと思います。

荒井 美月 (東京都現代美術館 教育普及係)

あめんぼにげん



東京都現代美術館 ワークショップ2024

空間的美術鑑賞のススメ ～MOT図解をつくろう～記録冊子

執筆・編集 荒井美月(東京都現代美術館)

塩谷歩波

撮影 森田直樹

デザイン やまねりょうこ

発行日 2024年10月31日

発行 東京都現代美術館
〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1

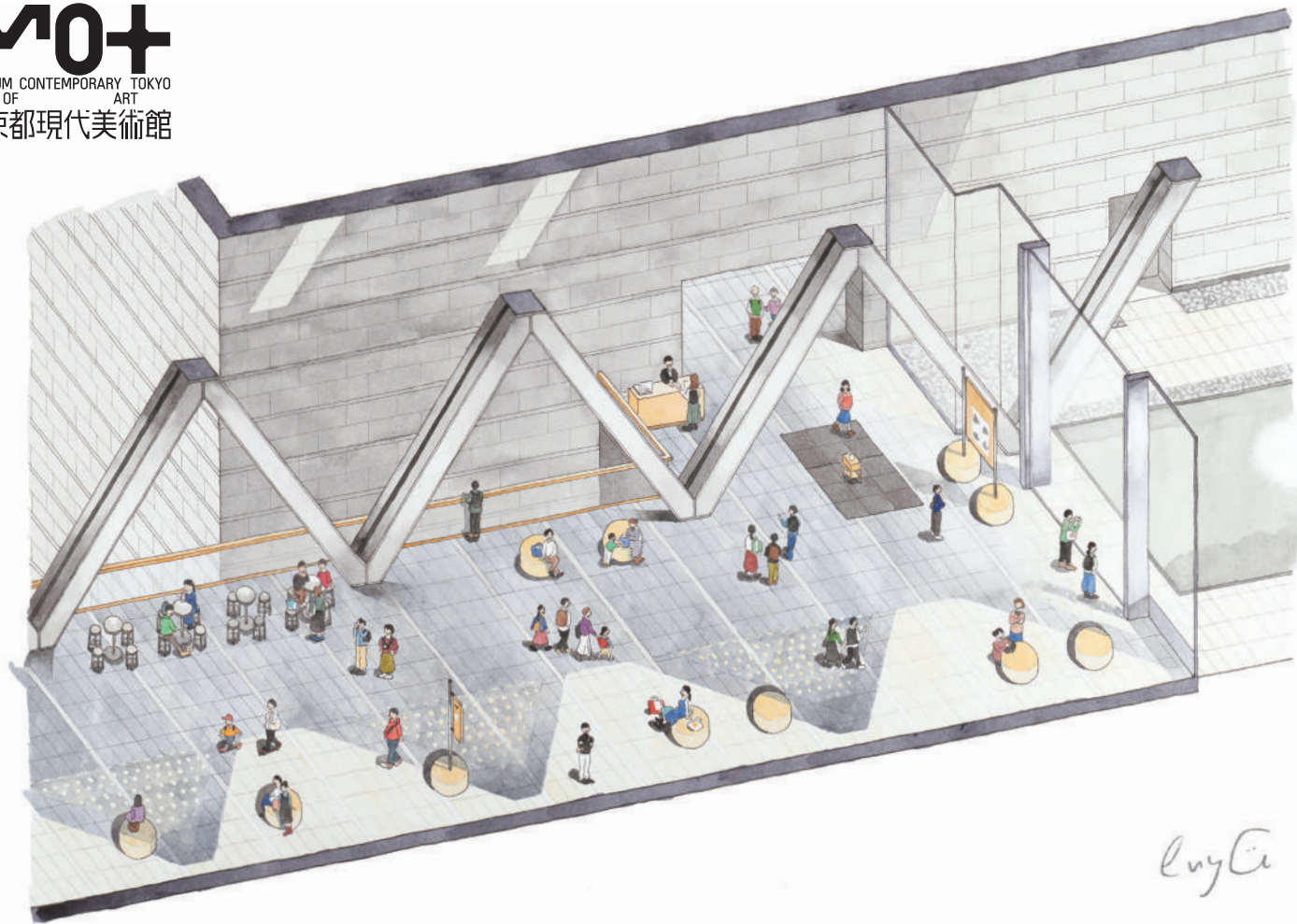
©2024 東京都現代美術館

禁無断転載

MOT

MUSEUM CONTEMPORARY TOKYO
OF ART

東京都現代美術館



LuyCa